

令和5年12月13日

関係各位

一般財団法人日本穀物検定協会

麦類の赤かび毒分析のご案内

我が国は、麦類（小麦及び大麦）の生育後期に降雨が多く、しばしば赤かび病の被害が発生します。赤かび病に感染した麦類はその病原菌が産生するデオキシニバレノール（DON）やニバレノール（NIV）といった赤かび毒に汚染しやすく、汚染した麦類はその外観から汚染の程度を判断することが出来ないため、理化学分析により汚染濃度を測定することが重要です。

食品衛生法に基づく成分規格では、小麦に含まれるデオキシニバレノールについて、「1.0mg/kg を超えて含有するものであってはならない」とされています。

当会ではデオキシニバレノールをはじめ、幅広くカビ毒の分析を行っていますので、是非ご用命ください。

まずは下記問合せ先までご相談ください。

カビ毒検査のご案内

問合せ先

一般財団法人日本穀物検定協会

連絡調整グループ（藤本）

TEL 03-3668-0911（代表）

E-mail rencho-g-hed@kokken.or.jp

URL <https://www.kokken.or.jp/analyze05.html>